

一般社団法人えんがお

# 2023年度事業報告書

期間：2023年4月1日～2024年3月31日

**令和5（2023）年度 事業報告書**  
**（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）**

**Ⅰ. 2023年度を振り返ってのご挨拶「組織の段階の変化を受けて」**

一般社団法人えんがおは、2017年の5月に法人を開設し、2023年度で会計年度としては7期目が終わります。まずは、毎年のことながら今年も一年間を無事終えられたことを、会員の皆様、役員の皆様に心より感謝申し上げます。

2023年度は、新しく「子ども部門」が立ち上がり、学童保育事業を開始しました。「若者の力を活かした高齢者の孤立支援」で始まったえんがおは、多世代交流こそが鍵であると知り、2020年に障害部門を開設。高齢者、若者、障害者との関わりの中で、多くのことを学びました。そしてさらに、子ども世代・子育て世代のニーズをうけ、子ども部門の立ち上げに至りました。

部門が増えると同時にスタッフも増え、2024年度からは常勤7名、非常勤25名の体制となっています。立ち上げ期を考えると、組織としては大きくなり、雇用という形でも多くの人と関われるようになりました。それに合わせて、事業ごとの連携や情報共有などの「マネジメント」がより重要性を増し、それぞれのスタッフ役割も変化しているように思います。

また、サービスを提供する対象者も増え、高齢者部門では主に47名の高齢者と関わり、料理当番や掃除当番、地域サロンのお店番などの役割を担ってくれています。障害部門では、現在14名の入居者がおり、子ども部門では32人の子どもたちが当法人のサービスに登録しています。

改めて、事業全体の「質」の向上と維持のための仕組みづくりや、雇用を継続するための安定した経営力が求められている実感があります。

加えて、2023年度は法人初となる「委託事業」を受託しました。内閣官房孤独孤立対策担当室の事業がえんがおの目指す「多世代交流を社会全体に広める」という方向性に合致していたことから、公募に手あげをし、受託に至りました。それがきっかけとなり、自民党本部の有識者ヒアリングで現場の声として意見を言わせていただくこともありました。

これまでの「地域の現場」に力を注ぐことを継続しつつ、「栃木県以外の孤立をどう変えるか」を考える必要性が高まってきていると感じています。全体を通して、一つの組織としての段階が変化し、より多くの責任と可能性を感じた1年間でした。

一方で、組織として大切にしているもの、これからも大切にしたいものは特に変わりはなく、「目の前の人を幸せにする」ことにあると思っています。それを丁寧に積み重ねつつ、今ある現場だけではなく、遠くの現場にも少しでも良い影響を与えられるよう、一般社団法人えんがおという組織が成長していくようなあり方を探っていきたいと考えています。

まだまだ未完成な私たちではありますが、これからもみなさんの期待を超えて、見ているだけでワクワクしてしまうような組織を目指していきます。引き続き応援のほど、よろしく願いいたします。

濱野将行

## II. 2023年度事業実績 (2023年4月～2024年3月)

### 1. 事業実績

#### 1) 高齢分野

部門	事業の種類 (定款)	項目	事業名	事業内容・名称	時期・ 頻度	2022年度 実績	2023年度の 目標値	2023年度 実績/年間 (実人数)	財源	
高齢者	生活支援事業	継続	制度外サービス	制度対象外の生活支援	通年	188件 (54世帯)	300件 (70世帯)	343件 (40世帯)	利用料	
		継続	世代間交流イベント	世代間交流イベントの実施	6回/年	11回315人	18回500人	5回245人	参加費	
		継続	みんなの家	1階：サロン	1階：サロン GHからの参加	通年	558人	700人	926人	寄付会費
高齢者	世代間交流事業 ネットワーク・コ ミュニティ 形成事業	継続	世代間交流イベント	世代間交流イベントの実施	6回/年	11回315人	18回500人	5回245人	参加費	
		継続	みんなの家	1階：サロン	1階：サロン GHからの参加	通年	558人	700人	926人	寄付会費
		継続	みんなの家	1階：サロン 2階：学生向け勉強スペース	1階：サロン GHからの参加 2階：学生向け勉強スペース	通年	466人 1766人	500人 3000人	588人 1017人	寄付会費 寄付会費
高齢者	新規	継続	SHARE PLACE てのかご	地域食堂	通年	22回	22回	22回	利用料	
		継続	居住支援	シェア店舗/有償貸し出し つながり付き住宅/住居がない高齢者に、つな がり住居をセットで提供	通年	16店舗	30店舗	14件	利用料	

#### 【高齢者部門の説明】

えんがおの根幹である、高齢者の孤立支援。「人生の締めくくりに期間が孤立するような社会なら、若者は未来に希望を抱けない」との想いのもと、高齢者が人とつながり、さらに社会の中で役割を持てるような仕組みづくりを行なっています。

地域交流拠点であるサロンは、コロナの影響で一気に来る人が減りました。そのリカバリーのため、高齢者の参加を増やすためにテーブルの配置を工夫したり、将棋や麻雀などの日を作るなど、例年にもまして試行錯誤した年でした。結果、男性高齢者も含めコロナ前よりも高齢者の常連を増やすことができました。また、居住支援にて他地域から移住してきた方が地域食堂で料理当番になったり、地域の高齢者がサロンのお店番になってくれたり、役割の創出も行っていきます。高齢者部門は、制度事業などを行っておらず、全体的に「寄付・会費」と「補助金」を財源としております。

2) 障がい分野・子ども分野

部門	事業の種類 (定款)	項目	事業名	事業内容・名称	時期・ 頻度	2022年度 実績	2023年度の 目標値	2023年度 実績/年間 (実人数)	財源
障がい	障害福祉サービス 事業	継続	障がい者向けグループ アホーム	共同生活援助施設 「ひととなり」「つむぎ」「むすび」	通年	11人(満室)	11人(満室)	14人 *2024年3月より一 棟増加。	制度事業収 入
<p><b>【障がい部門の説明】</b>            地域開放型の障がい者向け入居施設を運営しています。入居者が比較的自由に過ごせ、地域の人と関わることを目的にした施設です。実際に入居者の多くが、地域サロンで高齢者や若者、子ども達と関わっています。2棟が満員の状態でも問い合わせを多くいただいたことから、2024年3月に3棟目を開設しました。4月の時点で4人定員で3人の入居申し込みがありました。</p> <p>地域交流の接点をしっかり持っている点と、関係機関への報告を密にする点で他社と差別化を測っています。現状3棟が限界ではありますが、今後も入居者の方の心身の健康と合わせて、社会への発信も意識して取り組んでいきます。</p>									
子ども	放課後児童健全育 成事業	継続	不登校生支援	フリースクールごちゃごちゃ	週1回	登録数5人	登録数7人	登録数11人	利用料・寄 付会費
		新規	放課後児童健全育成 事業	えんがお見童クラブ	月～土		登録者数20人	登録者数12人	利用料・委 託料
<p><b>【子ども部門の説明】</b>            不登校生支援では、地域サロン内で行うことで、高齢者・障がい者など様々な人と日常的に関わられる環境を生みだせています。一方、市内の不登校生の増加に対して利用者数や問い合わせ件数が伸びず、学校と連携した周知や方法の見直しが課題です。</p> <p>2023年度に開設された学童保育では、専属スタッフの加入で保護者とも密にやりとりすることができました。また、学童が始まったことでえんがおのつくるコミュニティの中に子どもたちの声が日常的に響き渡るようになりました。結果、問い合わせ件数などは大幅に増え、2024年度の登録者数は27名（満員）となりました。</p> <p>地域に子どもたちを呼び込む接点としても、法人として挑戦して良かったと思います。「学童保育」は今後社会の中で役割が増していくとされているため、子ども部門にできることをスタッフ間でしっかり考え、話し合いながら枠組みを作っていきます。</p> <p>一方、法人の性質上障がいを抱えたお子さんの相談も多くいただくのですが、市内にそういった受け皿が不足していることもあり、一つの課題と捉えています。</p>									

3) 地域づくり分野・ナレッジ展開分野

部門	事業の種類 (定款)	項目	事業名	事業内容・名称	時期・ 頻度	2022年度 実績	2023年度の 目標値	2023年度 実績/年間 (実人数)	財源
地域づくり	活動促進	継続	講演会	介護予防・地域づくり促進	依頼時	52件 (2463人)	55件 (3000人)	68件 (3780人)	謝金
			活動体験者	学生の活動体験受け入れ	通年	延1200人	延1200人	延1200人	寄付会費
ナレッジ 展開	情報発信・出版事業 ネットワーク・コミュニケーション形成事業	継続	情報発信	WEBSITE、 SNS(facebook,twitter,instagram) えがお通信	通年	6193フォロー	7000フォロー	7822フォロー	自費
			県北若者ラボ	地域活動についての勉強会・会員交流会	通年	年5回	年4回	年4回	自費
			内閣官房孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査「活動者のプラットフォームづくりと創業支援」	SNSグループでのプラットフォームづくり オンラインミーティングによる情報交流会 創業支援	月一回	7回 121人	7回 150人	5回 120人	5回 120人
		2023年度委託事業			2023年7月 から 2024年3月 まで →自費で 継続			登録者数 1300人	委託料
					→終了 (一部継続 フォロー)			5回 延べ 262人	
								4名実施。 3名が活動開始。	

【ナレッジ展開】

以前から課題感として抱えていた、「栃木県大田原市だけを変えればいいのか」という問いに、少しずつですが向き合っています。R5年度内閣官房孤独孤立対策担当室の事業を受託し、えんがおのような多世代交流の取り組みが全国に広がるための社会基盤整備について活動しました。全国の活動者・活動希望者との情報交換ができるプラットフォームや、定期的なオンラインミーティングの基盤を作成し、各地の取り組みや今後始めたい人がつながる仕組みづくりを行いました。

オンラインの活動者ネットワークは、全ての都道府県から1400人以上が登録。また、全国の活動者をつなぐzoomを活用したミーティングでは毎回60名近くの参加者がいました。こうしたプラットフォームを生かし、現場だけでなく「社会に広げる」ことにも力を注げるように、今後も意識して取り組んでいきます。

## 2. 会員・団体名簿

1) 個人会員 全96名

【正会員A】 議決権あり、1000円/月

・ 34名

【正会員B】 議決権あり、5000円/年

・ 32名

【賛助会員A】 議決権なし、1000円/月

・ 4名

【賛助会員B】 議決権なし、5000円/年

・ 26名

2) 団体会員 全6社

・ 賛助団体A (年会費100,000円)

医療法人社団宇光会 村井クリニック様、有限会社 ケアサポートまもる様

・ 賛助団体B (年会費50,000円)

企業組合 とちぎ労働福祉事業団様、朝日生命保険相互会社 那須営業所様

・ 賛助団体C (年会費30,000円)

株式会社 大田原まちづくりカンパニー様、株式会社 サムライトサムシング様

## 3. メディア掲載回数

1) 紙媒体

・ 下野新聞 2回 日本経済新聞 1回 介護新聞 1回

・ Yahoo! JAPAN 1回 コモンズ投信 1回

2) 音声媒体

ニッポン放送 1回

3) 映像媒体

・ NHK 1回

## 4. 2023年度運営体制

代表理事：1名

理事：9名

監事：1名

職員：常勤6名、パート25名